
野犬

かずてる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野犬

【Nコード】

N5723M

【作者名】

かずてる

【あらすじ】

ちよっと人に見せる必要があつて、ぱぱつと書いてみた。

糸川のアパート前に停めた車のなかで、車体に当たる雨音を聞いていた。

糸川がよこしてきたメール。三時間前。

消えます ありがとう

自虐的でナルシズムに満ちたことばにうんざりして携帯を閉じた。お前の生き方、正直いらいらするんだよね。追いかけてほしくて、逃げて逃げて、そのくせ寂しいとか言わずに「オレ、人つきあいとかいらないんで。先輩もオレみたいな縁切っちゃってくれて構わないっすよ」

糸川と僕は十年前、深夜コンビニバイトの相方として出会った。

僕は夕勤シフトの女の子といい感じになり、同じころその子に惚れていた糸川とその子を奪い合うかたちになった。糸川はその子に嫌われていた。

「糸川くん、なんかべたべたしてくるから。ちょっと困ってるかも」

糸川との夜勤シフト明け、近所の駐車場でぼこぼこにした。そのときの青くさいキレかたを三十歳を過ぎた今も糸川にからかわれる。

「あんとき、天野さんオレの女がどうかぶちキレてたっしょ、まだアンタら付き合っつてねえじゃんって殴られながら思ったっつうの」

糸川が自殺しますとか、消えますとか宣言するのはこれがはじめてじゃない。

木屋町で飲んだ頃のことだ。僕に抱きついて泣き出して、「先輩だけっすよ、オレとつながってるの」うなじに糸川の鼻水がすりつけられて気持ち悪かった。糸川は弱い男だった。翌朝にはたいいてい「すんませんでした。消えます」そんなメールをよこしてきた。

糸川も僕も職を転々としていて、よく同じ時期に同じく無職の身だったりして、次々に大人になっていくまわりのなかで糸川と僕の

つながりはゆっくりといびつに、より幼児的に、依存しあうようになつていった。

傘をさした糸川が助手席のウィンドウを叩いた。大粒の雨粒がウィンドウの向こうの糸川をぼかしている。パレードの拍手みたいな音の圧力が車体を包んでいた。糸川のために助手席のドアを開けてやる。

僕と糸川は雨粒のなかで二匹の野犬みたいだった。寂しくて、寄り添う。了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5723m/>

野犬

2011年10月7日09時22分発行